

碓氷峠修路成る

金森誠之

信濃路の山が荷になる暑哉

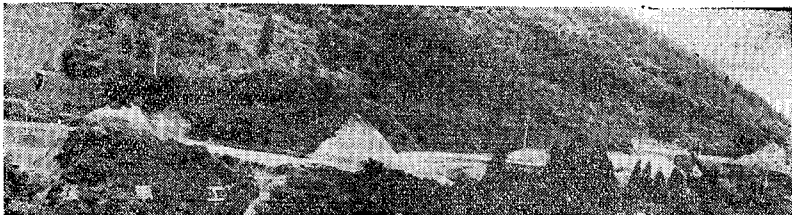
一茶

里はまた時雨も染めぬ紅葉を

碓氷の嶺に今日見つるかな 藤江正明

栗の葉が黄ばんだ楓が真紅にもえてゐる、こゝ碓氷峠に秋が訪れて其の装漸く整つた十月三十日と云ふに其の麓坂本の宿は嘗て見ざる賑ひを呈してゐる、古めいた街道に沿ふて若竹が立てならべられそれにホーヅキ提灯が點々とつるされ、晴着を着飾つた村の童達は物めづらしく嬉しそうに其の間をかけ廻つてゐる、今日は峠道の修路が成つて其の竣工祝賀式があるのである。

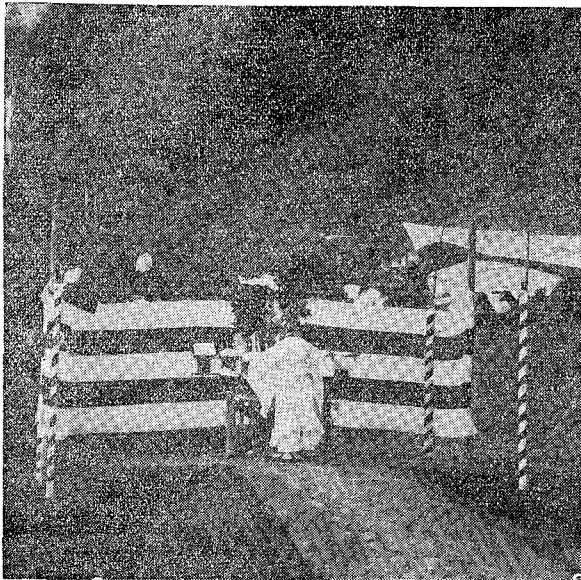
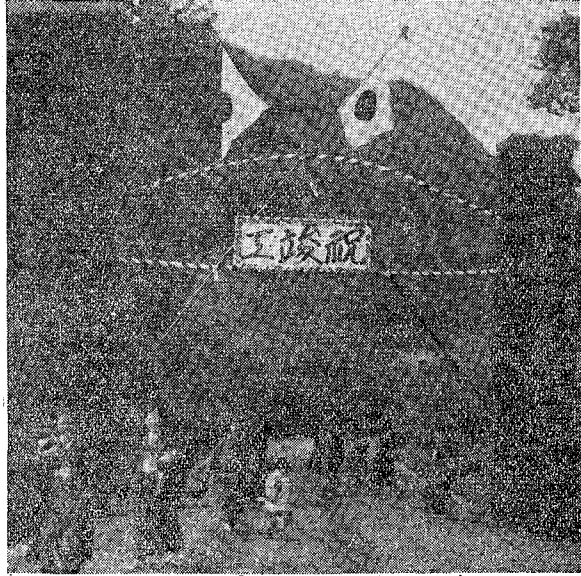
前夜より降りつゞいた雨も、式が初まらうと云ふ晝前にはすつか



り晴れ渡つて、秋の空には一點の雲もなく、妙義の峯々がくつきりと紺碧の空に聳ち、風にそよぐ峰の尾花も数えら

れて嚴な式場がしつらへてある。

正午と云ふに、煙花の音が谷々にコダマして式が始つ

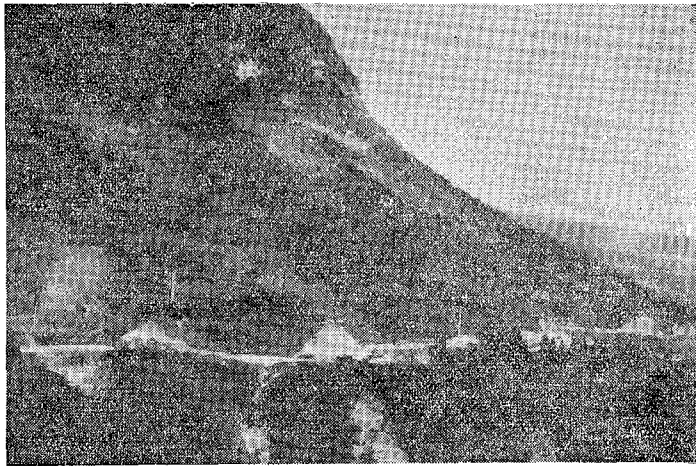


れそうな快晴である、坂本の宿外に建つた「祝竣工」と記した大アーチを過ぎると、紅葉の中にテントが張り廻さ

た、真田東京土木出張所長、金澤群馬縣知事を初めとして朝野の名士が集つたいとも盛大な式典である。

笙、箏、篳篥の音も神々しく、式は型の如く修祓、降神、獻饌祝詞奏上玉串奉奠と進んで、眞田所長の式辭、森主任技師の工事報告に續いて、各方面からの數々の祝辭が卓の上に着高くつまれて式は滞りなく終つた。

こゝにはめづらしい大祝宴の後坂の通り初めが始つた、その昔中山道の難路として驛馬につるした鈴の音も斷えだえに苦しんだ坂を自動車をつらねて通り初めんとするのである、聞き傳へた各種の自動車會社は今日の晴れに参加せんものと東京より百有餘哩の距りも遠しとせず、ナツシユ、クライスラー、ヴィツクフォード、デソト、シボレー等オートバイありトラックもありセダンあり



ツウリングあり何れも最新式の新車に「祝儀氷道路開通」

の装をこらし列をなすこと姦々メートルこうした催しは我國初めての事であらう今を盛りの紅葉の坂を登つて行く。

麓より峰に到る改良區間一萬二千七百七十四米、曲りありと雖、徑十二米に過ぎず坂急なりと雖も十五分の一より緩にして、路面は坦々として砥の如く、麓より四千九百米の碎石道、自動車はトツブのまゝギアを變ずる事なく而も十哩に縮むるも徐ろに登つて行く。

熊平を過ぎてより山は益々深くなつて、嵐氣冷かに谷深く生ひ繁つた木立に晝尙暗い、海拔七百米、秋の半と云ふに外套の襟を立つるも尙肌寒い、これより頂きま

では真冬には零下十度廿度に下ると云ふ、爲に改良前の道

路は、暗さに濕りぼ

く、寒さに氷り上り、

路面は全く亂れて

車馬の通行に殊の外

難澁したものであつ

た、この部よりは五

千五百五十米混凝土

の舗装となし地盤の

硬軟によつて鐵筋を

挿入し僅かに幅三米

に過ぎずと雖も、春

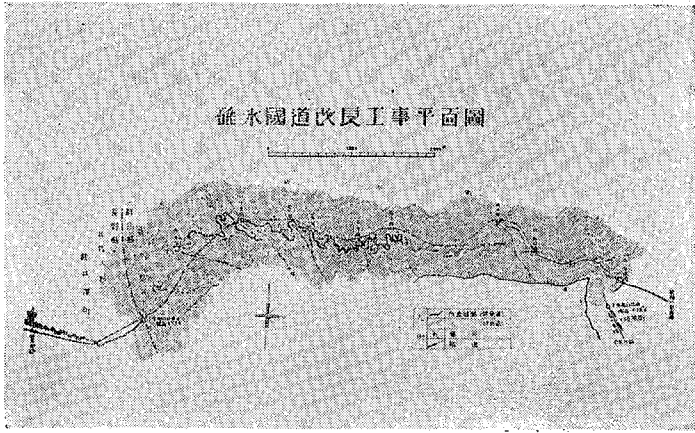
夏秋冬この行列の如

く靜かに安らかに上

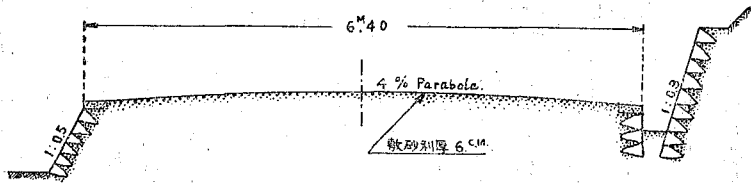
下出来る事であら

う、坂が二十分の一

より急となれば掘鑿工事から採集せる岩石で作つた石塊を



砂 利 道



以て小舗石舗装が施

され車は却つて心地

よく登つて行く。

四時近く秋の日の

斜に紅葉の一入映え

で見ゆる頃頂きに着

いた。

飾り立てた行列の

ねり歩きに時餘を要

したのであつたが改

良道路は普通の運轉

を以てすれば横川輕

井澤間登り下り共四

十分足らず、輕井澤

に汽車を見失つてよ

り後尙十有餘分も徐

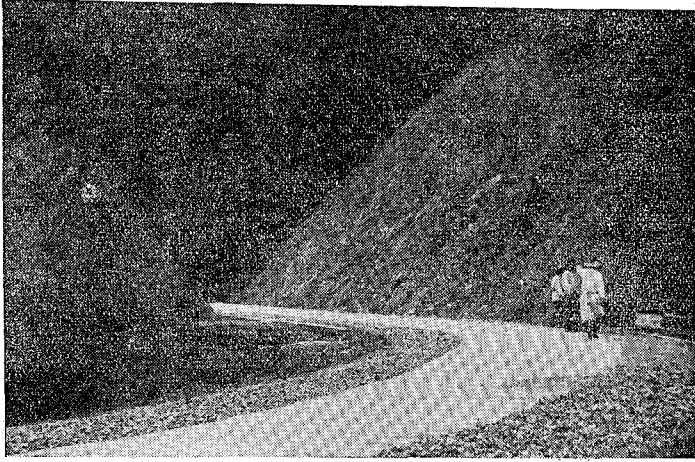
に休憩して自動車を

走らずも横川にて其の汽車を捉へる事が出来るのである。

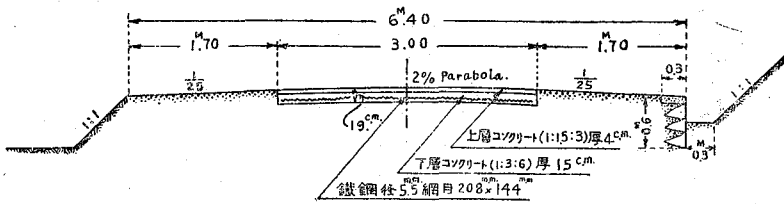
頂上で山本内務大臣の題額になる修路の碑が徐幕されたこの道路の變遷は碑面の眞田所長の撰文で盡されてゐる。

碓氷峠修路碑

内務大臣從二位勳一等男爵山本達雄題額
 中山道碓氷峠ノ通路
 ハ往昔多少ノ變改アリタレトモ明治初年迄ハ坂本驛ヨリ概ネ峰傳ヒニ子持山ヲ過キ峠町熊野神社ニ至リ舊輕井澤ヲ經テ離山沓掛ニ達スルモノニシテ幅員狹小勾配急峻車軌ヲ通セザリシ



二層式コソクリト舗装



カ明治十六年八月ヨリ十七年五月ノ間ニ於テ國庫補助ヲ仰キ長野縣ニテ離山坂本宿間全線ヲ附替ヘ大ニ土工ヲ起シテ新道ヲ開鑿シ離山ヨリ正東シテ上信國境ノ山脈ヲ鑿平シ山腹ヲ迂回曲折シテ熊野平ヲ通過スル現在ノ道路トナシタリ舊道ノ延長三里十一町新道四里二十五町平均勾配舊道ハ舊輕井澤里程標坂本標間登リ降り共十二分一ナリシヲ矢ヶ崎川國境三十七分一夫ヨリ坂本標迄三十分一最急約十分一トナシ爾來車馬ノ通行安易ナルヲ得ルニ

至レリ夫ヲ役スル三十萬三千八百工費七萬九千圓ナリ、明治十八

年十一月信越線鐵道

横川驛迄開通シ次テ

二十二年四月横川輕

井澤新道上ニ馬車鐵

道ヲ通ス二十六年三

月アプト式鐵道ノ開

通ニ伴ヒ馬車鐵道ヲ

廢ス昭和七年七月内

務省直轄ニテ坂本宿

國境間ニ更ニ改良ヲ

加ヘ輻員ヲ六・四米

ニ勾配ヲ十五分一以

下ニ屈曲半徑ヲ十二

米以上トナシ路面維

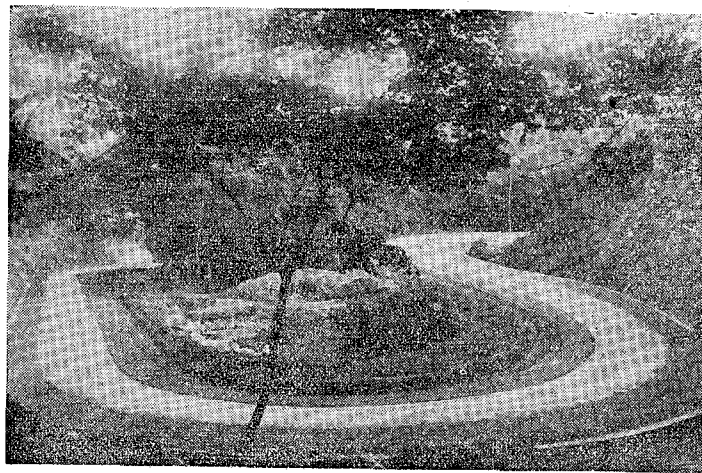
持ノ困難ナルヘキ區

間ニこんくりいと鋪

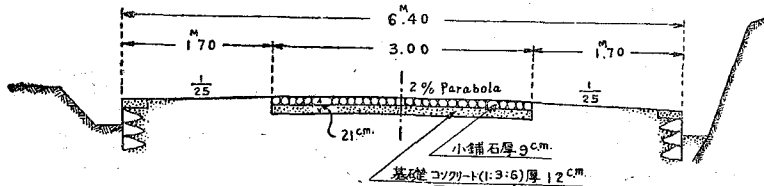
裝ヲ施シ斯クシテ舊

態一新自動車ノ走行

快適ナルニ至リタリ八年十月竣工ス工費二十一萬一千八百工費三



小鋪石鋪裝



十七萬八千圓ナリ 確

水峠明治以後ノ交通變

遷右ノ如シ

昭和八年十月

内務省東京土木出張

所長工學博士眞田秀

吉撰

内務屬大宮森次書

高八尺幅三尺六寸

峠にドライヴする人

輕井澤に暑さを避く

る人達はこれに依つ

て昔を想ひ現在を見

て感に堪えぬことで

あらう。

夕日は傾いて碑の

影は長々と山の尾に

引いて山の秋の殊更

に寒い頃目出度竣工の祝賀式が終つた。

あつた。

抑もこの仕事は昭和七年度産業振興の爲改良に着手したもので第十號國道群馬縣碓氷郡坂本町より群馬長野縣界に至る一萬二千七百十米

山には岩石が多い、爆破せんにも近く鐵道が通り無數の電線が道に沿ふてゐる。山は寒い、氷り上りが路面下一米

の改良工事として、急

にも及ばうとする寒さである、冬の混凝土施工は

峻なる山腹を縫つた片

殆ど不可能と云はなければ

ソバ道を改良したもの

ばならない。而もこの寒

で在來の幅を約二倍し

さに抗すべき鋪裝を施さ

て六米四十種に擴げん

なければならぬ。

とするには、一方は千

山は十二キロメートル

尋の谷、片方は屏風立

の間全く人跡絶えて人の

した山裾、何れに擴げ

住むべき家などが無い、

んも、莫大な土量を要

これに五百人近くの人夫

し、加之八分の一、十分の一など、云ふ急坂を全平均二十

を使はなければならぬ、この工事は一として困難ならざ

六分の一の勾配の内にて十五分の一以下とし、半徑四米、六

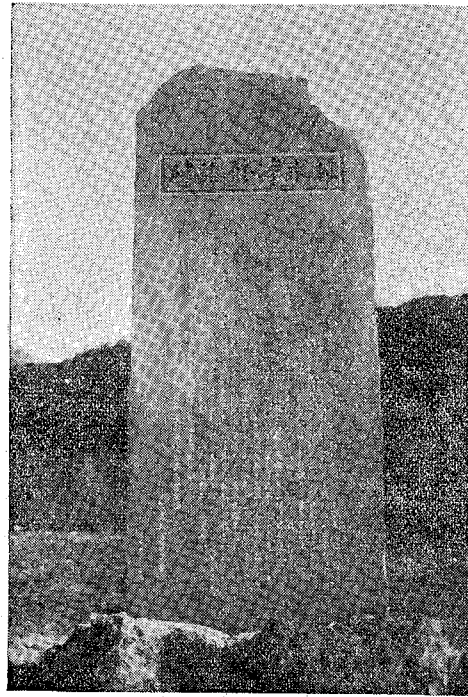
るものはない、然し今は立派に竣工したのである。

米と稱すべき急曲線を半徑十二米以上とし、加之約百二十

七年九月工事は近衛、水戸兩工兵大隊に依頼した爆破工

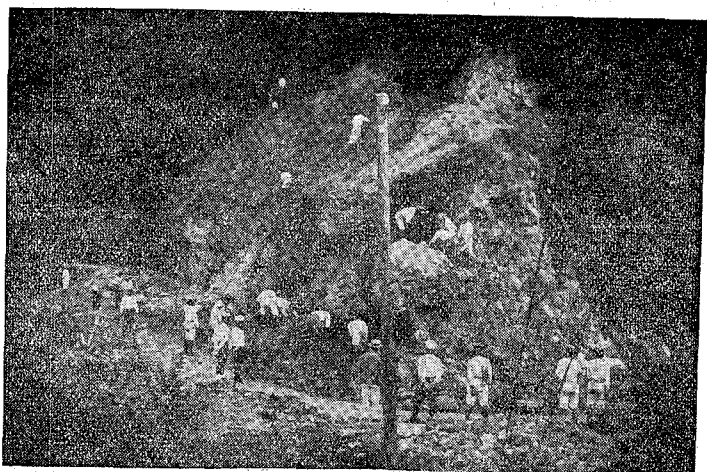
箇所も其の屈曲を除いたのであるから、とても難工事で

事によつて初められた、山は唸る岩塊は飛ぶ、不幸にして通



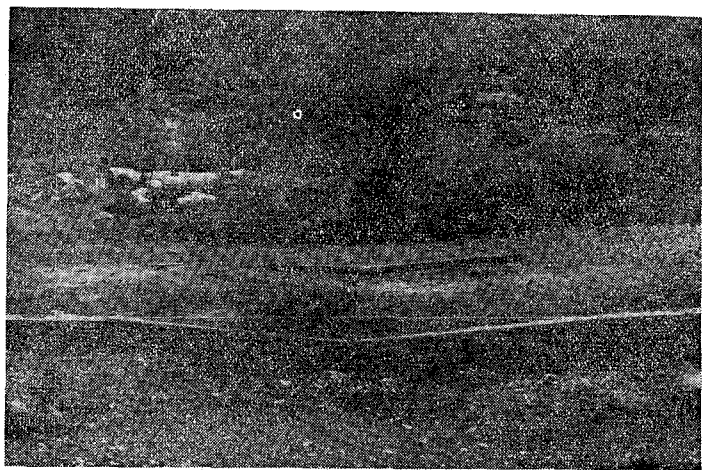
信を杜絶せしめた事もあつたが、大過なく進んで軍隊の去つた後は一

濟に活動を起し着々全量六萬三千六百立方米の岩石を爆破し其他の土量を加え合計十四萬七千七百立方米の掘鑿をなし五萬三百立方米の盛土を完成した。



冬は殊の外寒かつた、試に氷結の地盤に側溝の石積を施

行したのが氷の解けると共に寫真に見る如く折れてしまつ



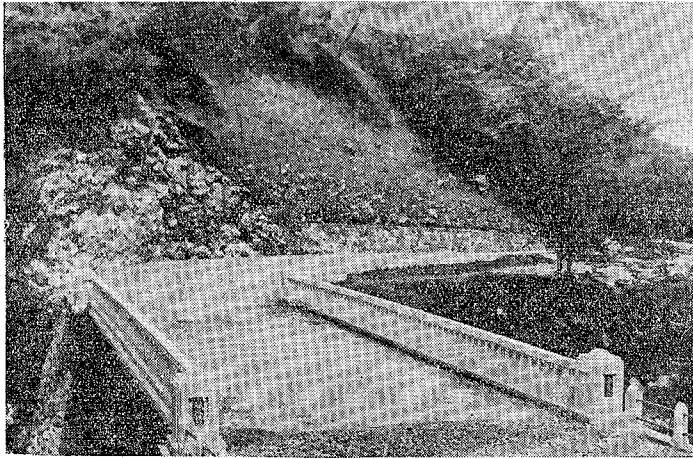
た。

試験の鋪装は長七米五十纏幅三米のものが中央にて五纏も持ち上げられて、厚さは十五纏になる様混凝土の上に石塊を埋め込んだ位のものであつたから一たまりもなく割られてしまつた

寒さの内に色々の試験や研究をして厚さや鐵筋の挿入など

の事を定めジョイントをなるべく多く置く事(五米毎)に定て豫定の通り鋪装を完結した。

其他の竣工した數量は、橋梁九箇所延長六十七米、暗渠二十二箇所延長二百四十二米、排水側溝一萬二千六百米等々、全工費當初三十萬圓なりしを三十七萬八千圓に増額しこの改良工事を完成したのである。



木内檢事論告の一節

抑も國家の安寧は國法が嚴正に行はるゝことにより保たるゝことは萬世不易の鐵則にして法亂れて國治まることはないであります、若し國法を重んぜざるが如きことあらば綱紀弛廢し百弊此に生じて不測の禍害を醸成するに至るべきは火を賭るよりも明かなる次第であります。

被告人等の行爲は國法に反する非違にして國家革新の手段に依りて國家の改造を斷行せんとするも到底其の目的は達し得るものに非ず、其結果は更に第二第三の直接行動を誘致し暴に翻ゆるに更に暴を以てするに至り停止する處を知らず變俗風を爲し恐るべき結果を招來するに至るのであります。凡そ事を爲すには其の目的の正しきは勿論合法の手段に依り正々堂々の方法を以て之れを遂げることが要義とするのであります若し目的の爲めに手段を選ばずとの思想を是認し國法を無視して直接行動を容認するが如きは風潮社會の一部に瀰漫し居るとせば邦家の爲洵に遺憾の極にして法律に照し嚴重に之が取締を爲さなければならぬのであります。